



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8114
長崎市橋口町 1-1
長崎大司教館内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-842-4460
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田 良 秋
印刷所
株式会社 インテックス

祈りの意向
・教皇
・日本
重要な水資源が適切かつ持続可能に管理され、すべての人が公平にその恩恵にあずかれるように祈ります。被災者、移動者のために、祈ります。彼らが地球上のどこにいても、神に愛された者として、基本的人権や人間の尊厳が守られるように。

8月9日、浦上で平和祈願祭

主よわたしをあなたの平和の道具としてください

長崎原爆投下の日の8月9日(日)、18時30分から長崎大司教区主催の平和祈願祭が行われた。浦上教会での平和祈願ミサと、浦上教会から爆心地公園までのたいまつ行列には、国内外の各地から集まった人々が参加し、ともに祈りをささげた。

聖フランシスコ年(2026年1月10日〜2027年1月10日)にあたる今年、平和祈願祭のテーマは「主よわたしをあなたの平和の道具としてください」。ミサの主司式は中村倫明大司教が務め、駐日ローマ教皇庁大使のフランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教、高見

三明名誉大司教、大阪高松大司教区の前田万葉枢機卿と酒井俊弘司教、また、30人以上の司祭団が共同司式をした。教区内をはじめ全国各地から長崎・浦上を訪れた人々、「韓国如己の会」関係の中高生ら約20人と、イスラエル・パレスチナ・日本の平和交流プロジェクトの青年ら15人余も一緒に、司教・司祭・修道者・信徒ら総勢約800人が心を合わせて祈った。

「神の御声に耳を傾け…」

ミサのはじめ、教皇大使モリーナ大司教が英語であいさつした。

大使は、原爆投下80年の昨年、教皇レオ14世が「広島と長崎を単なる歴史的記憶にとどめるのではなく、平和対話、和解そして軍縮に向けた永続的な取り組みとするよう呼びかけた」とい

中村大司教の説教

ミサでは中村大司教が説教をした。大司教は冒頭、「アッシジの聖フランシスコの平和の祈り」をもとにした聖歌の一節を歌った。そしてミサの福音箇所(ヨハネ 20・19・23)から「あなたがたに平和があるように」を挙げ、「これがイエス様の切なる願



説教をする中村倫明大司教

い」と言及。「こんにち、人類は激しい嵐の中を進んでいます」と、絶え間なく続く戦争、核兵器の脅威、テロリズム、偽情報、憎悪、人々の間の分断の深刻化といった問題を挙げ、「しかし、福音は、恐れが決して私たちの決断

の基盤となつてはならないことを私たちに思い出させてくれます。平和は、恐怖に対する対抗手段としてではなく、神への信頼と、すべての人間の尊厳を認めることから生まれるのです」と語った。そして預言者エリヤの箇所(列王記上 19・12)を引き、「武器の音が理性を押し流してしまふかのようなこの世界においても、神の御声は良心の静寂の中で私たちに語りかけ続け、対話とゆるしそして和解へと招いておられます」と続けた。

最後に「長崎の記憶は、今日私たちに、この世の喧騒の中で神の御声に耳を傾けるよう招いています。主よ、私たちに、信仰の灯を絶やすことなく燃やし続け、沈みゆく兄弟姉妹に手を差し伸べ、真の平和の匠となれるよう、恵みをお与えください」と述べ、人類が二度と広島や長崎が経験したような惨劇を繰り返さないようにと結んだ。



い」だと強調。世界の至るところで起こっている対立や分断、武力で押さえつける動きや核兵器保有が抑止力になり平和に寄与するとさえ思われている風潮に触れて次のように語った。

「私たちはまず、イエス様の言葉をしっかりと受けとめなければなりません。『剣を持つ者は剣で滅びる』『武器を持つ者は武器で滅びる』『核兵器を持つ者は核兵器で滅びる』。さらに、歴代の教皇や教皇レオ14世の言葉を紹介し、「被爆者の方々と一緒に『核兵器は人類と共存できない』と叫んでいかなければならない」と語った。

大司教は、復活されたイエスが恐怖で「鍵」をかけていた弟子たちの家と心に「平和と和解の鍵となつて」入られたように、私たちも「平和の鍵」「平和の道具」となるよう呼びかけた。その鍵となるためのヒントを聖フランシスコの平和の祈りは教えてくれるとし、こちらの方から愛し、ゆるし、理解し、与えていくこと、「その大きな証しのご聖体」であり、神は「ご自分の命を与え、私たちを救ってくださる」と説いた。

大司教は「ミサの後のたいまつ行列は、戦を始める雄たけびの行列ではありません。私たちが平和の光として、平和の道具として、人々に示していく平和

「令和8年熊本地震」被災地支援のため福岡教区などで募金受付

7月28日に発生し、最大震度7を観測した令和8年熊本地震。被災地・被災者の状況は発災直後から現在まで連日報道で伝えられている通りだ。福岡教区のヨゼフ・アベイヤ司教は7月30日に文書を発表し、被害を受けた方々へのお見舞いの言葉と祈りとともに、前日29日に熊本県のいくつ

の教会とその地域を視察したことを報告し、支援のための募金を呼びかけた。また、福岡教区と連携し対応を検討していたカリタスジャパンも、31日に緊急支援募金を開始した。

長崎教区では中村倫明大司教が7月31日、長崎教区のすべての皆様に向けて「被災地支援のための献金(募金)」のお願いを発表。日頃から寄

浦上教会から爆心地へ

ミサ後20時頃、たいまつ行列へと移った。祭壇脇にある復活のろうそくから火を受け取り、聖堂外の正面から行列がスタート。たいまつやペンライト(300本と400本を準備)を手にした人々の列が、被爆マリア像を先頭に浦上教会を下りて平和町商店街の歩道を進み、爆心地公園までつな

がった。信者らはロザリオの祈りを唱えながら歩き、公園到着後は、旧浦上天主堂被爆遺構の前に置かれた被爆マリア像の前で「あめのきさき」を歌い、それぞれに祈り、祈願祭を終えた。

さまざまな世代の人々が祈りや奉仕をしてささげる平和祈願祭。平和祈願祭実行委員長の西尾雅俊さん(浦上教会信徒)は、特にたいまつ行列について、「たいまつ行列は終戦後2年目から先祖たちが被爆後の苦しみの中から立ち上がり、平和を祈って続けてきま

せていただいている「一葉募金」とは別に、8月の3回の主日ミサ献金のうちから寄付をお願いするといった意向を伝え、協力をお願いかけた。献金は、長崎教区会計へ8月20日までに、または福岡教区へ直接送金いただくようお願いしている。

令和8年熊本地震 募金受付

■教会内支援のため
郵便振替 01760-6-20729
加入者名 カトリック福岡司教区
*通信欄に「令和8年熊本地震のため」と明記してください。

■被災された方々への支援や生活再建、地域の復興のため
郵便振替 00170-5-95979
加入者名 宗教法人カトリック中央協議会
カリタスジャパン
*通信欄に「令和8年熊本地震」と明記してください。

ため、また、焼け野原となった浦上の地で亡くなった多くの方々を追悼するために行われています。台風の影響が心配されましたが、数カ月前からの準備と当日参加した約160人のスタッフの、祈りの声が届いたのでしょうか、予定通り実施となり無事に終わりました」と安堵した様子で語った。

8月15日、佐世保で聖母平和祈願祭



8月15日(土) 13時から、アルカサSASEBOで「聖フランシスコの特別聖年―聖フランシスコと聖母マリアの霊性―」というテーマのもと、佐世保地区聖母

平和祈願祭が行われた。第1部の「講演とロザリオ」では、コンベンツアル聖フランシスコ修道会聖母の騎士修道院長の山口雅稔師(上の写真)が、アッシジの聖フランシスコの聖母マリアに対する祈りの解説を通して、聖フランシスコと聖母マリアの霊性、両者のかかわり、そして、私たちが「マリアのように信仰に生きることが、フランシスコの願いであり、望みである」と話され、参加者はその思いを胸に「聖母マリアの被昇天のロザリオ」を唱えた。第2部では、中村倫明大司教の主司式のもと、地区内外の司祭、助祭、修道者、信徒、約420人によって平和祈願ミサがさげられた。

この日は、開場からミサの開始まで、アッシジの聖フランシスコと聖クララの聖遺物がロビーで顕示され、多くの参列者が特別な恵みの機会を得ることができた。

「今年の夏も暑かった」と回顧する。年ごとに苛烈さを増す灼熱の夏を乗り越えるのが毎年の挑戦となつてきている。日常生活に大きく影響を及ぼす気候は落ち着いたものであつてほしいと思うのは、拙者の願望にすぎないのか。▲この夏も、我々にはさまざまな試練が与えられた。連日の酷暑日、令和8年熊本地震の発生、兵器による殺りくや破壊の応酬など。人々がへきえきする事象や出来事が発生するたびに、特に人の手によって引き起こされたものであればあるほど、我々はそれらを歓迎しない。▲しかし、極限状態にあつてもそれらを乗り越えようと懸命に務める者たちがいる。身を危険にさらさないよう人々に警鐘を鳴らす者たち、被災地に赴き被災者たちに寄り添い働く者たち、これ以上の被害を出さないように諸々の抑止力や対話で解決をみようと取り組む者たち。過酷な現状の中、自身の危険と隣り合わせに、自分たちの家族や大切な人々を残して働きに専心する人々の勇気、使命感そして実行力には感服するばかり。▲「だが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができません。困難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。『ローマ8・35』人々が困難の最中にある時、その献身をもつて我々の強力な味方であろうとする者たちの姿は、キリストの愛の体現者と言えるのかもしれない。」(熊)

核なき世界基金
被爆地からのチャレンジ
みんなでいのちと地球を守ろう!
<https://nuclear-free.net/>

2026年度 教区評議会総会開催

7月20日(月)大司教館体育館で2026年度教区評議会総会が開かれ、各小教区・各部門の代表である信徒と司祭約120人が参加した。

冒頭、中村倫明大司教が会長あいさつを行った。大司教は、当日の福音にある「しるし」という言葉に触れ、「私たちが神様の愛のうちに生かされているからこそがしるしであり、だからこそ『大丈夫だよ』と人々に声をかけていかなければならない」と述べた。また小教区の編成については、今後の司祭数減少が小教区にも影響を及ぼす可能性があることを伝え、次のように語った。

エドワルド 村中司神父

帰天



7月7日午後10時43分、間質性肺炎のため長崎市の聖フランシスコ病院で逝去。90歳。

1936年4月16日五島市生まれ。三井楽教会出身。62年3月19日大浦天主堂で司祭叙階。同年4月三浦町、63年紐差、66年9月中町、68年出津、69年4月青砂ヶ浦の各教会で助任。同年9月曾根、78年水ノ浦、88年相浦、96年宝亀、99年三浦町、2007年長与の各教会で

づきにくいものです」そして、教区が掲げる理念「ともに参加し、ともに交わり、ともに宣教する長崎教区」と2つの優先課題「ともに集い喜び合う教会」「わたしたちの教会から、わたしの家庭から、司祭や修道者を」を示し、家族や友人への声かけの大切さをあらためて強調するとともに、来年に控えている邦人司教区設立100周年の節目に向けて、パリ外国宣教会の宣教師たちに



午後、邦人司教区設立100周年に向けてのグループディスカッションが行われた。教区シノドスコアチウムリーダーの岡秋美師、副リーダーの野濱達也師の進行により、11委員会の委員長による提言の後、参加者は11グループに分かれて分かち合いを行い(写真)、最後に各グループが発表した。

2026年度 第1回 司祭評議会

6月29日(月)10時から大司教館で行われた。承認事項は以下の通り。

- 2026年度司祭研修会は、26年11月10日(火)「霊における会話」(分かち合い)を主テーマに開催する。
- 「カトリック長崎大司教館および公用車の利用に関する内規」を改定し、体育館のエアコン使用時の献金ルールを明確化した。
- 教区所有の車両(バス)の貸出に関し、公平性を保つため、「必要最小限の優先予約期間」と「利用回数
- 教区評議会総会時の講演会、高校生による100周年に合わせた演劇を企画する。
- 帰天聖職者の命日にその司祭を思い起こすための人物紹介を作成する。
- WYDソウル大会に関する報告
- 同大会日本事務局(中
- 1 来年度の邦人司教区設立100周年の予定
- 記念ミサを2027年11月3日(水・祝)に浦上教会でささげる。
- 教区年表を出版する。
- 長崎教区の歩みを掲載したパンフレットを発行する。
- 4 人事に関する報告
- 平戸地区コンベントの推薦を受け、福島光明師(平戸ザビエル記念教会主任)を平戸地区長に任命。
- 「日本カトリックいのち・平和・人権委員会」(今年2月の司教総会で承認)の教区担当者(窓口)として教区平和推進委員会委員長の鍋内正志師を選出した。

第1回 教区顧問会

6月29日(月)13時から大司教館で行われた。承認事項は以下の通り。

2025年度収支決算書案、26年度補正予算案、滑石教会聖堂・司祭館屋上防水改修工事、天神教会墓地駐車場用地取得、褥崎公民館用地として教区所有地寄付、三浦町教会黒髪霊園の土地寄付(県工事関連)、カトリックセンター跡地の時間貸駐車場としての暫定利用が承認された。

また、長崎市曙町の旧ロザリオ幼稚園解体および跡地整備の完了、聖和女子学院の高校一部共学化やコース見直しが報告された。

ミカエル 下窄英知神父

帰天



7月15日午後8時30分、食道がんのため別府市の鶴見病院で逝去。60歳。

1965年7月22日新上五島町生まれ。土井ノ浦教会出身。92年3月17日浦上教会で司祭叙階。同年5月三浦町、95年出津の両教会で助任を、98年井持浦教会で主任を務めた。2002年4月カトリック中央協議会へ派遣。10年4月から長崎教区事務所(12年4月まで本紙編集長)。19年7月

会葬御礼

カトリック長崎大司教区司祭エドワルド村中司神父、ミカエル下窄英知神父の逝去につきましては、早速ご丁寧なる弔問・弔電ならびにご香典を賜り、葬儀の際にはご会葬・献花の弔意に接しました。うえ、各教会・修道院で故人のために祈りいただき、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。一々拝眉のうえ御礼申し上げます。

紙上をもって代えさせていただきます。

二〇二六年七月
カトリック長崎大司教区
大司教 中村 倫明

大浦天主堂キリシタン博物館 企画展 9月末まで開催

長崎の聖母マリア — 信仰と希望の光 —

会期 2026年4月29日(水)～9月30日(水)
開館時間 8時30分～18時(最終入場17時30分)
場所 大浦天主堂キリシタン博物館 旧大司教館2階
入場料 大人1,000円 中高生400円 小学生300円

※団体割引あり。長崎大司教区信徒カードをお持ちの方は無料。

相続登記はお済みですか

土地・建物・会社・法人の登記手続 相続手続
遺言書の作成 相続土地の国庫帰属手続 など
まずは、お電話を!!

司法書士 行政書士 山下 緑 事務所

ミカエル 山下 緑
〒854-0014 諫早市東小路町10-21 電話 0957-22-6177

主の平安



株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館 五島留会館

代表取締役 コゼフ 浦 昭

24時間営業

五島市上大津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551
FAX (0959) 74-5552
五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101
FAX (0959) 64-3102

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ドミニコ 溝口 悦雄
〒858-0926 佐世保市大湊町511番地3
TEL (0956) 47-4380

赤城墓地 小家族様 分譲中

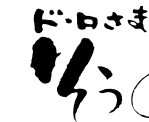
長崎石彫 岩永
095-862-2469



砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268



Nagasaki Spaghetti
長崎スパゲッティ
Since 1988

株式会社サンフリース ド・ロさま麺工場
長崎市西出津町2528-1
TEL (0959) 23-0610
FAX (0959) 23-0611

右記URLから
ご注文できます



チエレスティノ 松田 清四朗 神父

(コンベンツアル
聖フランシスコ修道会)



7 月 9 日午前 3 時 47 分、膀胱がんのため長崎市の聖フランシスコ病院で逝去。78 歳。

1947 年 8 月 2 日奄美市生まれ。66 年入会。67 年有期誓願。70 年終生誓願。74 年 7 月 28 日司祭叙階。

司祭叙階後は古田町教会助任、76 年龍郷地区の

主任、79 年筈利教会主任を務めた。82 年アメリカ留学。84 年奄美修道院、85 年古田町主任、87 年古仁屋主任、91 年仁川助任、仁川学院事務局長、94 年瀬戸助任、日本カトリック研修センター職員、2000 年東村山修道院、01 年東京・本部修道院、真生会館へ派遣。02 年仁川助任、仁川学院長、仁川学院中学高等学校長、03 年 1 月本部修道院、同年 10 月からいくつかの教会で司牧。13 年湯江主任、17 年亀有主任、21 年赤羽教会協力司祭、25 年 4 月から聖母の騎士修道院。聖書や、第 2 バチカン公会議後の教会における

典礼や司牧の在り方を学び続け、各地で「和善の会」という集会を開催するなど、多くのひととみことはを分かち合い、研究講話を行って精力的に活動した。

また、カウンセリング形式でさまざまな方々の悩みを受け止めた。病にかり、晩年は思うように体が動かせない状態であったが、夢を抱いて、可能な限り活動が続けようとした。

8 月 11 日 記念日にミサ

浦上の先祖を支えたサンタ・クララ教会

聖クララおとめの記念日にあたる 8 月 11 日(火)、大橋町のサンタ・クララ教会記念碑のもとに浦上教会の司祭 4 人と信徒ら合わせて約 40 人が集まり、18 時 30 分からミサがささげられた。

1603 年に建てられたサンタ・クララ教会は当時浦上で唯一の教会だったが、徳川幕府の禁教令によって破壊されていた。その後、「教会で働いていた孫右衛門は、神



父を失った村人の間に、帳方・水方・閑役という「潜伏キリシタン」の地下組織をつくって信仰を固めた。その後の 250 年、村人たちは、この教会の跡を祈りの場としていた。毎年夏になるとここに集まり、盆踊りをよそおって祈りをとなえたという(「記念碑の説明文」)。

この記念碑(上田十米蔵作)は、日本の信徒発見 100 周年にあたる 1965 年 3 月 17 日、教皇特使パウロ・マレラ枢機卿によって祝福された。

ミサの説教の中で浦上教会助任の西田祐尚神父は、「『教会』とは建物というよりも、神の民が集うことを意味する」と前置きし、「教会が破壊されても、先祖たちは厳密な意味での教会を失っていませんでした」と語った。そして、守護の聖人(8



イレナ 濱元アサノ 修道女

(純心聖母会)



7 月 1 日逝去。101 歳。平戸市生まれ、田平教会で受洗。1950 年初誓願、59 年終生誓願。

初誓願後は長崎、鹿児島、小野田の福祉施設で 7 年間施設長を務めた。会としてブラジル宣教の依頼を故里脇浅次郎

枢機卿から頂き、1980 年にブラジル宣教を始めた。その先発隊の長として 4 人の姉妹と共に出発。2000 年 8 月までの 20 年間で、ブラジル宣教のかたわら、多くの方を修道召命へと導いた。万難を排して突き進んだシスターの姿は、強い信仰と忠実さによるものといえる。

9 月 1 日 ~ 10 月 4 日 すべてのいのちを 守るための月間

短 信

〔平和を祈る音楽朗読会〕

7 月 18 日(土) 14 時から城山教会で、第 19 回平和を祈る音楽朗読会「マリアの丘から愛をこめて」の言葉を生きた命の言葉として、追害、旅原爆というつらい経験をした人々を慰めるために、今年この教会跡地に集まったというとし、「追害、旅原爆」というつらい経験をしてもなお私たちの集いが消えないのは、サンタ・クララ教会が先祖の心にならした信仰の種が成長して

いる証しであり、私たちの中にも巡り巡ってまかれた種があります」と説いた。西田神父は、先祖の集いと信仰を支えたサンタ・クララ教会への感謝とともに、教会を通してまかれた種を大切に受け継いでいくことができるよう祈りを呼びかけた。

新刊良書

★わたしたちの希望であるイエス・キリスト―



著者は、教皇フランシスコと教皇レオ 14 世。『希望の巡礼者』をテーマと

★聖イグナチオ「霊操」の学びと黙想への招き

著 英隆一朗



イグナチオ・ロヨラが作り実践した「霊操」を、多忙な現代人にも理解や実践をしやすくした具体的な解説書。毎日少しずつ霊操を行いたい方が本書の対象。霊操により、神とのパーソナルな関わりを深めながら、各自のユ

★ほらみてごらん
作・絵 いもとようこ



じいちゃんだいき、のくまの子が、「ねえじいちゃん」と問いかける、と、じいちゃん「ほらみてごらん」と言っ、大切なことを教えてくれる。「たくさんのいのち

2026 年度 定例司教総会 『教会の祈り』改訂へ 作業開始を承認

日本カトリック司教協議会は 6 月 15 日(月)から 19 日(金)まで、東京・日本カトリック会館で 2026 年度定例司教総会を開いた。総会には司教 17 人が出席し、オプザイバーとして日本カトリック管区長協議会と日本女子修道会総長管区長会の代表 4 人も参加した。

主な報告事項

▼第 2 回「司祭生涯養成プログラム A」は、叙階後 5 ~ 8 年および、23 年実施の第 1 回で欠席した現在叙階後 9 ~ 10 年の司祭を対象として、27 年 5 月 19 日 ~ 26 日、那覇教区内で開催予定。叙階後 15 ~ 20 年の司祭を対象に、海外で行う「司祭生涯養成プログラム B」は、アジアでの実施を軸に計画。

▼2027 年ワールドユースデー(WYD)ソウル大会(8 月 3 日 ~ 8 日)は、本大会と、その前に韓国の各教区がホストとして開催する「教区での日々」(教区大会)から成る。教区での日々に向け、韓国の教区と連絡を取り始めている教区もある。札幌教区はマサン教区、さいたま教区はスウォン教区での参加を検討中。広島教区はプサン教区で参加予定。

▼過去の WYD では、周辺国の教会が通過地として短期滞在の受け入れや祈りの集い、青年交流などを通じて巡礼者を歓迎した例も見られる。だが、日本の教会は信徒総数も青年層も規模が小さいため、WYD ソウル大会においては、開催国に準じる受け入れ態勢を構築する立場には立たず、通過国として可能な範囲で巡礼者を支える。中央協議会では、この基本方針の整理、対外的説明や、関係機関との連絡調整、国内での情報収集・共有などを担う。巡礼団の短期受け入れの可否、実施方法などは、各教区の自由な判断に基づき、各教区の実情に応じて判断する。

▼司教協議会における公認団体の認定について、長らく 2000 年施行の公認団体基準を適用し続けていたが、用語手続の多様化や、対応を予防的取り組みに転換する必要性を踏まえ、ハラスメントに該当するためのガイドライン作りを行ってきた「未成年者等ガイドライン運用促進委員会」の名称を「セーフティガイドライン委員会」に変更することを承認した。

「セーフティガイドライン」とは、子どもや障害者など、社会的に弱い立場にある人々を暴力、虐待、搾取、ハラスメント、事故などの危害から守り、安心・安全な環境を整えるための組織的な取り組みや仕組みを指す。

同委員会は、①カトリック教会が既に持つハラスメント対応のためのガイドラインの改訂、普及・促進

▼日本の教会が使用している現行の『教会の祈り―新しい聖務日課』は、第 2 バチカン公会議の典

課の典礼」初版の第 1 巻、4 巻の省略版として発行された(1973 年)。その後 85 年、87 年に第 2 版が公布されたため、第 2 版に準拠した『教会の祈り』の改訂が必要とされてきた。今回、本格的な改訂作業に着手するため、未翻訳箇所

の翻訳、現行の翻訳文の見直しを行うなどの作業方針を承認した。

主な審議事項

②ハラスメントの事例の責任者である教区、修道会などとの連携 ③ハラスメント防止に向けた啓発活動―などを行う見込み。

召命親子キャンプ

教会巡り、焼き肉と花火、ミサなど

8月3日(月)から4日(火)にかけて、教区召命委員会(辻原達也委員長)主催による「召命親子キャンプ」が佐々教区を会場に行われた。小学生18人をはじめ、親、シスター、司祭ら、総勢42人が佐々教会に集まった。



1日目は巡礼。新しく発行された巡礼スタンプ帳(左記参照)を片手に、佐世保地区の5つの教会を巡った。子どもたちからは「全部行ったことのない教会だった」「いつか教会を全部まわってスタンプ帳をうめたい」などの感想が寄せられた。夕食は焼き肉を堪能し、花火をして一日を締めくくった。2日目はミサにあずかり、朝食後に浅子教会へ出発。浅子の海で水遊びを楽しんだ。



参加した子どもたちからは「楽しかった、また参加したい」との感想、保護者からも「神父様やシスター方と関わらせていただき、良い体験をさせていただいた」といった声が聞かれた。



主催者は、「過去、このキャンプに参加した子が神学校に入った例もある。この子たちの中から召命の実りがありますように、祈りを続けていきたい」と語った。

同キャンプはおおよそ2年に一度行われ、前回は2024年に実施された。

長崎地区子どもスポーツ大会

7月30日(木)、シーハットおおむらで長崎地区子どもスポーツ大会が開催された。種目はドッジビー。長崎地区若手司祭団の運営により、毎年夏の一大イベントとして子どもたちと保護者、応援団とでにぎわうこのスポーツ大会。今年の出場者は、長崎地区内の19教会と浦上養育院の小学生男女約270人だった。

大会に駆け付けた中村倫明大司教は開会式のあいさつの中で、相手チームと自チームの健闘をたたえ、多くの人と友達になるよう、そして、神学校や志願院に入って司祭・修道者を目指してほしいと声をかけた。試合では子どもたちは暑さに負けず、日頃の練習の成果を発揮して大きな盛り上がりを見せた。また会場には2日前の7月28日に起きた令和8年熊本地震の犠牲者・被災者のために急ぎょ献金箱が設置され、合計10万4682円の寄付金が集まった。寄付金は、長崎教区から福岡教区を通して被災地へ送られる。

ドッジビーの結果は、優勝・浦上A、準優勝・浦上B、3位は飽の浦、浦上養育院チームだった。



1日目、厳律シスター会の伊万里聖母トラピスチヌ修道院で黙想会を開始、シスター方の昼の祈りへの参加、修道院長様によるシスター会や修道生活、また院長様自身の召命体験のお話、ゆるしの秘跡を、ここで行いました。修道院から伊万里教会(福岡教区)に移動し、ともに祈りもささげました。その日は大崎教会で宿泊、参加者同士や信徒の方との交流、初めての寝袋の体験に、寝不足の子もいたようです。



2日目、大崎教会でのミサの後、佐世保・平戸の巡礼を行いました。大崎から神崎、檉崎、佐々、平戸に渡り、宝亀、紐差と教会を巡りました。それぞれ、主任神父様や信徒の方が教会を紹介してくださり、手厚く歓迎してくださいました。

この黙想を通して、ともに過ごし、ともに祈った参加者たちの絆が深まったことが、委員会として喜びでした。ご協力くださった関係者の皆様に感謝を込めてご報告とさせていただきます。

教区青少年委員会
委員長 川端 志範

巡礼の歩みの一助に『教会巡りスタンプ帳』

今年8月、長崎教区内にある教会の写真などを載せた『教会巡りスタンプ帳』が発行された。教区シノドスコアチームが編集・発行したこの冊子には、69



教区シノドスコアチームが編集・発行した巡礼スタンプ帳の表紙イメージ(表⑤と裏⑥)

小教区の教会と、国宝大浦天主堂、日本二十六聖人記念聖堂(聖フィリッポ教会)を合わせた129教会のページがあり、それぞれスタンプを押すことができるようになっている。B6判140頁、1冊税込500円。

同チームは各小教区に案内を送付し、このほど申し込み受付を開始した。個人への販売は行わず、小教区で取りまとめの上、ファクスで注文するという流れだ。発行は2000部で、在庫がなくなり次第終了する。詳細は小教区でのお知らせをご確認いただきたい。

教区シノドス担当の野濱達也師は次のように呼びかけている。「2025年は『希望の巡礼者』をテーマに聖年を過ごしてまいりました。長崎教区では25の教会が巡礼指定教会に選ばれ、この指定教会を巡るスタンプ帳も作成されました。すべてを巡礼した達成者は253人で、こ

れも聖年のお恵みであります。またすべてを巡ることはできなかったものの、多くの方が巡礼へと出かけたことでしょう。この実りを受け、シノドスコアチームでは、長崎の教会すべてを巡る『スタンプ帳』を作成し、発行に至りました。ぜひ、手に取っていただきこれからの巡礼の歩みの一助としていただけたら幸いです。

また、長崎教区は2027年に『邦人司教区設立100周年』を迎えます。次の100年へ向かって、宣教活動の良き道具としてもご活用ください。カトリック教会を知らない方が教会を訪れるきっかけにもなるのではと期待しております」

上五島地区小中学生合同黙想会



7月29日(水)に青方カトリックセンターで、上五島地区小中学生の合同黙想会が行われた。



はじめに、前日28日(火)に発生した令和8年熊本地震の被災者や、被災者のために働く人々のために祈りをささげ、災害への意識を強くした。その後、小教区ごとにグループに分かれ、上五島地区に現存する教会のミッションをクリアして

サイコロ転がして次はどこへ行く?

所在地をマス目に見立てて、全部で38教会の歴史について学ぶ「すごろく巡礼」を行った。それぞれのマス目では各教会のミッションをクリアして

教区青少年委員会主催「長崎青年の日」のご案内

長崎教区青年の皆様へ

9月21日(月)から22日(火)、2年に一度の青少年委員会主催で開かれる「長崎青年の日」が行われます。この大会は長崎教区の青年が大司教様のもとに集い、教会との交わりや、同世代の絆を深めるためのものです。

今回のテーマは、「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」(ヨハネ 16:33)。2027年 WYD ソウル大会のテーマであり、恐れと罪と死に打ち勝つキリストをあらわすこのみことばが、教区青年を力づけるものであるよう、願いを込めて分かち合いたいと思います。多くの青年が参加しますよう、呼びかけをお願いします。

委員長 川端 志範

日時 2026年9月21日(月)13時～22日(火)13時
集合場所 長崎大司教館(長崎市橋口町1番1号)
申し込み 8月後半から9月6日(日)まで
対象 18歳以上～40歳のカトリック信者(高校生不可、独身者)
※主任司祭を通して申し込みをお願いいたします。求道者も主任司祭の推薦をいただければ参加できます。
問合・申込先 教区青少年委員会(川端)
大崎教会 Tel 0956-47-6188

世界平和へ祈りを...

明治石材

長崎本店 長崎市城栄町13-1
大村店 大村市赤佐古町287番地
HP <http://meijisekizai.shopinfo.jp>

業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話 (095)846-3598
電話 (0957)50-3008



主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎 市 辻町 7-18 TEL (095) 844-4011
24時間営業 FAX (095) 843-9896